

サラヤ株式会社御中

ウガンダ国モロト県における生計向上支援と母子栄養指導を通じた栄養改善事業  
写真報告書 第二四半期（2024年11月～2025年1月）



2025年2月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



## 1. 事業概要（各四半期共通）

<b>事業名</b>	ウガンダ国モロト県における生計向上支援と母子栄養指導を通じた栄養改善事業
<b>事業期間</b>	2023年3月～2026年7月（40ヶ月の見込み）
<b>対象地</b>	ウガンダ共和国カラモジャ地域モロト県（首都カンパラから約480km、車で約10時間）
<b>事業の上位目標</b>	支援対象準郡において妊産婦及び2歳未満の子どもの栄養状態が改善される
<b>ひ益者数</b>	約10,000人（農家160世帯、混合農業普及員20人、村貯蓄貸付組合8団体、医療従事者30人、村落保健チーム80人、保護者約1,600人、子ども約8,000人、栄養分野の行政関係者40人）

ウガンダ北東部のカラモジャ地域には、歴史的に多くの牧畜民が居住しており、主に畜産と雨に頼った天水農業で生計を立てていますが、頻繁に干ばつが発生するため、人々は食料援助に頼らざるを得ない状況です。貧困率も60.2%とウガンダ国内で最も高くなっています。

同地域に位置するモロト県では、住民の50%が急性食料不安または人道危機レベルの飢餓リスクにさらされています。食料不安は子どもたちの栄養状態に大きな影響を与えており、4割近くの子どものたちが慢性的な栄養不良の状態にあり、乳幼児死亡のほぼ半数(45%)が低栄養に起因しています。また、栄養不良は子どもの認知発達の遅れや学力の低下につながり、子どもたちの健全な発達を妨げます。

サラヤ様からもご支援を受けて、本事業の1年目を2023年3月からモロト県タパッチ準郡にて実施し、2024年7月に無事に完了いたしました。その知見を活かし、2024年8月より、同タパッチ準郡に加え、ルプトウック準郡とカティケキレ準郡の計3準郡に対象地域を広げ、本事業の2年目の活動を開始しました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、サラヤ様からのご支援とその他日本政府資金等をもとに、子どもの低栄養が深刻であるウガンダ・モロト県で、農・畜産業支援を通じた生計向上、母子栄養に関する保健サービスの改善、保健と農業のセクター間の連携促進の活動を実施し、コミュニティに栄養改善に向けた活動を定着させ、5歳未満の子どもの栄養状態の改善を目指します。以下に、本報告期間の活動の様子をご紹介します。



【左】飛行機から見たウガンダ中央部とカラモジャ地方の比較。右がカラモジャ  
【右】土・藁・木を使った現地で一般的な家屋。

## 2. 本報告期間の活動の様子

### 2-1. 農・畜産業支援を通じた生計向上

本報告期間中に、農・畜産業についての技術を農民に指導する混合農業普及員 8 人と地域ボランティア 10 人を対象に、養蜂に関する研修を 3 日間に渡り行いました。研修では、ウガンダ国立農業研究機構 (NARO) の専門家から、養蜂場の設置、蜂の害虫管理、巣箱の点検、蜂蜜の収穫と加工方法等を学びました。特に、定期的な巣箱の点検と清掃の重要性が強調され、巣箱に侵入する害虫を駆除して蜂の定着率低下を防ぐよう指導がありました。



養蜂の研修を受ける農家

今次に設立された 3 つの小規模生産者グループを対象に、モデル農園と家庭菜園で使用する背負い式噴射器 6 個、植え付けライン (農地に直線を引くための道具) 60 個を供与しました。さらに、1 年次に設立した 5 つの小規模生産者グループを含めた計 8 つの小規模生産者グループに、野菜種子 (トマト、ササゲ、キャベツ、玉ねぎ、ケール) を配布しました。また、農家の栄養知識向上を目的に、当会の保健栄養技術官が、栄養不良の概念、6 ヶ月までの完全母乳育児と正しい授乳方法、離乳食の調理法、栄養に配慮した農業などの研修を実施しました。ルプトゥックグループのリーダーは、「野菜栽培方法の研修と種子の配布のおかげで、野菜を栽培できるようになり、主食の購入だけで済むようになりました。さらに、栽培した野菜の一部を販売することで収入が増え、子どもたちを栄養不良から守るためのバランスの摂れた食事をすることができるようになりました。」と話します。



モデル農園でササゲを収穫する農家

各生産者グループで村落貯蓄貸付組合 (VSLA: Village Savings and Loans Association) を立ち上げ、組合員に貯蓄や投資についての研修を提供しています。本報告期間中には、今次に設立された 3 つのグループに VSLA キット (簡易貯蓄金庫、帳簿、計算機、ノート等) を配布しました。また、各グループの活動を定期的にモニタリングしており、現在までに、8 グループ全体で 9,913,000 シリング (≒410,299 円) を貯蓄しています。カラモジャ地域の世帯月収の中央値が 86,000 シリング (≒3,560 円) であることを考えると、非常に大きな額を貯蓄することができるといえます。<sup>1</sup>ルプトゥックグループのメンバーは、「モデル農園で収穫した野菜の収入をグループで貯蓄しています。これが私たちの子どもの栄養改善につながっているのです。」と誇らしげに話します。しかし、グループの中には、読み書きができるメンバーが不足しており、帳簿や出席簿が適切に記録され

<sup>1</sup> Uganda Bureau of Statistics (UBOS), 2021. Uganda National Household Survey 2019/2020. Kampala, Uganda; UBOS

ていない課題もあります。こうした課題を踏まえ、コミュニティボランティアと当会の技術官が各組合の書記官およびメンバーに対し、帳簿の記録方法を指導しています。

農家 32 人と地域ボランティア 2 人を対象に、市場の理解・分析のための研修を 3 日間に渡り行いました。研修では、マーケティングと市場調査の基礎、市場動態、バリューチェーン分析、ビジネスプランの作成等を学びました。研修を受けた農家たちは、「研修は非常に有益でした。自分たちの農産物を販売する際にマーケティングの知識が必要であることがわかりました。」「他の地域で活動している農家からも学ぶために、可能であれば他グループの学習訪問を実施して欲しいです。」と述べました。

## 2-2. 母子栄養に関する保健サービスの改善

村落保健チームがコミュニティにて、上腕周囲径を使った栄養スクリーニング活動を定期的に実施しています。本報告期間中には、3,543 人をスクリーニングし、新たに 31 人が重度急性栄養不良、105 人が中等度急性栄養不良と診断されました。それぞれの子どもの栄養状態に合わせ、病院や保健施設へ紹介しました。また、栄養不良と判断された子どもやそのリスクがある子どもをもつ世帯を継続的に訪問、経過を観察し、改善に向けたフォローアップを行っています。世帯訪問の活動中には、栄養スクリーニングで栄養不良と判断された場合でも、栄養不良が病気ではないという認識や保健医療施設が遠いなどという理由から保健医療施設に子どもを連れていくことをためらっている現状が一部あることが明らかとなりました。そのため、個別の指導および、コミュニティでの栄養啓発セッションを通じて栄養不良に関する知識の普及を継続し、母親の行動変容を促進していきます。

さらに、事業地域の 9 つの保健施設にて、調理実習を実施しました。調理実習には、妊婦や授乳期の女性、および男性を含む 2 歳未満の子どもの養育者計 855 人が参加しました。また、同保健施設にて栄養啓発セッションを継続的に行っており、本報告期間中には、2,141 人の養育者が妊娠中および授乳中の母親の栄養、授乳育児と離乳食の重要性、5 歳未満の子どもの成長モニタリング、家庭菜園等について学びました。参加者の一人は、「私たちは、バランスの摂れた食事や手洗いなどの水・衛生環境、正しい授乳方法などを学ぶことができ、大変嬉しく思います。この事



村落保健チームのモニタリング活動の様子



調理実習の様子

業にとっても感謝しています。」と述べました。また、保健施設職員と村落保健チームの能力を強化し、より良い質の母子保健・栄養サービスを届けるために、事業対象地域にある9つの保健施設において活動を監督・指導するモニタリング活動も行いました。

### 2-3. セクター間連携

本報告期間中に、各準郡行政府の栄養に関する計画策定と効率的な予算配分のための他セクター間との連携の強化を目的に、事業対象3準郡にて準郡栄養調整委員会を開催しました。準郡栄養調整委員会メンバーは、準郡行政府や市民社会団体、民間セクター、実施機関等で構成されています。本報告期間中に実施した会議には準郡行政府から保健、教育、農業、地域開発、財務担当官と同地域で活動するNGO職員等を含む計49人が参加し、各分野の最新情報が共有され、食料安全保障や子どもの栄養に影響を与える要因と、その具体的な解決策について議論しました。



ルプトゥック準郡栄養調整委員会の様子



タパッチ準郡栄養調整委員会の様子

以上